

平成 31 年 2 月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

2 月の業種別景況の前月比 DI 値は 14 業種の内、好転が 4 業種、昨年同等が 8 業種、悪化が 2 業種で、全体の景況感 DI 値も 1 月より好転している。

小売業や商店街からは、暖冬の影響で客足が伸びたとの報告がある一方、運輸業からは、ドライバー不足により稼働率が低下したとの報告があった。

山口県の中小企業は、コストアップから収益が悪化しており、慢性的な人手不足が続いている。

山口県の主要指標 DI 値（平成 31 年 2 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況

（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：2.5% 悪化：31.3% DI 値：▲28.8% ポイント

売上高

（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：20.0% 減少：32.5% DI 値：▲12.5% ポイント

収益状況









（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：10.0% 悪化：30.0% DI 値：▲20.0% ポイント

山口県の業種別 DI 値（業界の景況）（平成 31 年 2 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲30 以上	 ▲30 未満
--	--	---	--	---

食料品	織 維 工 業	木材・ 木製品	印 刷	窯業・ 土石製品	一 般 機 器	輸 送 機 器	全 製 造 業
▲42.9	▲50.0	▲33.3	▲100.0	▲33.3	11.1	0.0	▲27.3
							

卸売業	小売業	商店街	サービ ス業	建設業	運輸業	その他	全 非 製造業	全 体
▲20.0	▲44.4	▲75.0	▲18.2	▲20.0	▲14.3	▲100.0	▲29.8	▲28.8
								

特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	菓子業界は全体的に景況が悪化。販売不振だけでなく2月、3月で段階的に砂糖・箱等仕入れ単価が上昇。また、人手不足を背景に注文包材の納期が長期化。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	1月に引き続き、2月の売上も好調に推移。2月24日時点で対前年同月比+14.7%と二桁の伸び。前年に比べ降雪が少なく比較的好天で温かい日が多く、集客・売上増加の要因となった模様。3/3（萩しろお祭り）、3/10（萩の真ふぐ祭り）と2週連続でイベント開催。当館隣接公園も早咲きの河津桜も見頃を迎え、集客のフックとなっている。	水産食料品製造業 萩市
	消費増税前の停滞感か、全体的に物の動きが少ないように思われる。還元などはっきりしないところでの買い控えがあるのではないか。ここにきて運送費の値上げが高まり、非常に困っている。食品の値上げも続いているが、消費に結びつくかは不透明。	水産食料品製造業 下関市
	温暖化による天候が続き、花粉注意報が発令され、例年に比べインフルエンザなどの病気の拡散リスクが高まった。地球温暖化による気候変動により、予測できないような事態が起こっている。今後は二酸化炭素を排出しないような社会づくりが重要となると考えるので、バスなどの公共交通機関は、燃料電池の利用などを検討することも必要である。	精穀・製粉業
繊維工業	2月15日外国人技能実習生6名帰国。2月末人員=56名（中国人27名、ベトナム人29名）4月にベトナム人6名受け入れ申請中。	下着類製造業
	前月からの資材の未入荷が改善されず生産性が上がらない。納期が確定しているため、生産の厳しい状況が続いている。追加の発注はあるため、資材投入の改善を依頼した。例年発注のある製品が今年は当てにできないため、新規開拓をした結果受注の確保ができた。	外衣・シャツ製造業 萩市
	先月と大きく変化がない。時期的には繁忙期に入るので追加の仕事は出るはずであり、その兆候も少しある。	外衣・シャツ製造業 山陽小野田市
木材・木製品	材料不足で減少している。	製材業・木製品製造業 山口市
	公共工事関係で2次加工にまわった材料の精算が1年近くかかるものがあり、若干資金繰りに窮する組合員がいる。	製材業・木製品製造業 下関製

印刷	メーカーが値上げを促進するために、印刷用紙の供給を絞っており、用紙調達が困難な状況が続いている。	印刷 下関市
	2月より紙代が大幅に上がったが、製品に転嫁できず粗利にさらに影響が出そうである。	印刷 山口市
窯業・土石製品	2月の出荷量は (平成30年2月) 骨材129%、路盤材97%、再生材81% ↓ (平成31年2月) 骨材99%、路盤材141%、再生材167% 公共工事は相変わらず少ないが、民間のマンション等(箱物)や田んぼの埋め立て等が多い為、一時的に石が出ている模様。	砕石製造業
	出荷量は、前月比88%、前年同月比93%、累計前年同月比87%。平成30年度は前年度比約85%と厳しい見通しとなっている。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は下関・宇部小野田・長門・萩地区で上昇。	生コンクリート製造業
	本年度は、2社廃業・2社組合脱退となった。それに伴い各支部の再編成が必要ではないかとの意見が出ている。支部によっては1社しか残っておらず、支部より組合の理事を出しているため事業所の負担が増える事も考慮しなければならない。しばらくは現状維持とし様子を見る事となったが、いずれは大きな課題となるだろう。	石工品製造業
	平成30年に萩市を訪れた観光客は、約135.6万人で、平成29年比95.4%。宿泊者数も、約41万人で平成29年比95.4%。昨年と比較して数字通り、あるいはそれ以上の売上減となっており、依然厳しい状況が続いている。2月の萩市内の観光客は、月前半は昨年に比べかなりの減少が見られ、連休はある程度の観光客があり、売上も持ち直した。当組合員5社が参加した2月3日～11日のテーブルウェア・フェスティバル(東京ドーム)では天候に恵まれ、入場者は27万5千人で前年比95.5%ではあったものの、売上は前年と同水準を保つことが出来た。また、2月8日～10日、浅草「萩の風」に於いてファンミーティングとロクロ実演・販売のイベントを行い、また、組合員向けにマーケティング研修などを行った。ギフト・卸関係・百貨店の受注は前年同様。浅草アンテナショップ「萩の風」の売上も、昨年同様となっております。昨年から今年にかけてネット販売(商工会議所運営 e 萩焼.com)の売上が低迷、ふるさと納税の影響か。	陶磁器・同関連 製品製造業

一般機器	先月と変わりなく、組合員各社適当な仕事量であった。後半、期末の工事依頼が増えてきたので、3月は多忙になる模様。	一般機械器具製造業 下松市
	景気は組合員個別では若干ばらつきがあるが、全般的には安定して推移している。自動車関連は順調。設備関係は、県内の大型構造物が順調に工事が進んでいる。国外は、中国が回復。ベトナム、マレーシアなど東南アジアの受注は進んでいる。	一般機械器具製造業 防府市
	機械検査、機械加工関係、食肉加工、惣菜、自動車関係等外国人技能実習生を入れている全ての職種で業績は好調。残業も多い。36協定等法律の遵守を指導。介護職についてもインドネシアからの受入準備を進めている。入国後のN3の取得に猶予措置が設けられることになり、今後問い合わせが増加するものと考えている。制度改正に伴う、3号移行者の入国も順調。即戦力として活躍している。受入人数拡大枠の利用についても順調で、有効求人倍率の高止まりに伴い人手不足感が強まり、今後とも技能実習生増員の傾向にある。特定技能については、説明会等も始まったが、詳細は依然不透明である。企業からは問合せが増えている。なお、高度技能者の受け入れ相談が増えてきているが、企業の希望する人材の確保が難しい。ベトナム、インドネシアへの企業進出の相談も増えてきた。	一般機械器具製造業 宇部市
	人手不足が続いているが、前年と変わらない。	一般機械器具製造業 宇部市
輸送機器	車両は繁忙な状況が続いているが、全体としては横ばい。	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	海苔の保管残高が対前年同月比18.7%増加し、売上高に寄与した。	乾物卸売業
	天然は大量で安値、養殖は安定しているが来年は減る予想なので心配である。	生鮮・魚介卸売業
小売業	1月～3月は売上を望めない時期であるが、予約活動をしていた店は前年と同程度の売上が見込めた模様。各メーカーの美容部員数が減っているため売上もそれに伴い厳しい状況になっている。資生堂も商品数を減らしているため、代替品の提案など手間がかかっている。	化粧品小売業
	2月は、小売業の多くが商品の入れ替えで、売上より仕入れの方が大きくなる時節になる。街では年度末を迎えた様々なイベントや歓送迎会が行われ、人の動員は多い。31年度に予定されている消費税増税や軽減税率制度の導入に向けた啓発、キャッシュレス決済の本格化、またそれらに対する取り組みとして、商店街や小売業の勉強会が開かれている。	各種商品小売業 岩国市

	昨年と比べて気温も高く、季節先取りで冬物の在庫処分を行っている。温かいためか客数は1月より増。3月は異動の時期なので少しでも売上につなげたい。また、3月21日よりイベントを開催するので商店街の活性化につなげていきたい。	各種商品小売業 山口市
	先月から引き続き、販売に繋がるべく努力はしているが、個店の売上に繋がっていない。	各種商品小売業 下関市
	先月から行っている衣料店舗の店じまいセールも一段落し、客数、売上とも前年を下回る売上状況。	各種商品小売業 長門市
商店街	冬物最終セールや気温上昇とともに来街者数が増え、活気がある。前月より好転の傾向。	山口市
	撤退した百貨店の跡地利用の目処がつき一安心ではあるが、沈滞ムードは変わらない。	宇部市
	商店街の情勢は厳しい模様。洋品店で学生服等を扱う店は仕入れに忙しい様だが、少子化の影響か、購入数が減少している。時計等入学・就職に関連した商品は多少動きがある。他業種の店は客の出入りは少ない。	萩市
サービス業	今年は、雪も雨も少なく天候に恵まれたため例年になく客の出足は好調であった。下旬になると卒業式シーズンに突入するため、例年通り忙しい店が多い。	美容業
	好景気感がなく低価格店に流れているように感じる。	理容業
	1月下旬に「平成30年度自動車分解整備業実態調査」の結果が公表された。この調査は、全国の自動車整備工場の経営状況等を把握することが大きな目的となっており、発表されるデータは整備業界に少なからず影響をあたえる。結果としては、総整備売上高は2年連続で増加となり、業界にとっては明るいニュースではあるが、車検整備、定期点検整備などの売上げはプラスとなっている反面、事故整備が5年連続で約2、000億円の減少となっている。これは、急速に普及してきている衝突被害軽減ブレーキの装着率が増加していることで事故の減少は目を見張るものがあり喜ばしいことではあるが、事故整備を取り扱う钣金整備工場への影響が懸念される。	自動車整備業
	人口減少を感じる。大小問わずフィットネスジムが増えた。	スポーツ・健康教授業
	例年2月は閑散期で、今年も例年通り。最賃の引上げ、資材の値上げが相次ぎ、価格設定を見直さなければ品質の維持が難しくなっている。	普通洗濯業
	宿泊者数は、対前年同月比94.1%で、昨年11月から4ヶ月連続で前年割れとなっている。売上額は対前年同月比101.3%。	旅館業 山口市
	昨年同様に売上、収益とも厳しい状況が続き不景気感がある。施設利用者（入浴者）の落ち込みが続く。	旅館業 長門市

	働き方改革に非常に苦慮している。	旅館業 下関市
建設業	中電への工事申請176件（当支部分150件）、前年同月120件（同72件）。太陽光発電への申請26件（前年18件）、オール電化申請122件（前年66件）。LED街路灯への切り替え・新規申請17件（前年11件）であった。	電気工事業
	今年の前半の工事量はかなり減少すると予測される。完成工事高・最終損益の悪化している事業所が増えている。	左官業
	5月のゴールデンウィークが明けるまでは仕事がない見通し。	管工事業
	新築着工物件は少しずつ増加しているようであるが、屋根材に瓦を採用する物件は減少傾向にあるため、全体として工事量は減少傾向にある。2月以降、仕入れ価格（瓦、副資材共）の値上げが始まっているが、販売価格への上乘せが遅れているのが現状である。会員各社はそれぞれの顧客に値上げの交渉をしているが、その進捗状況は組合としては把握できていない。	屋根工事業
	柳井地区では、災害工事が県・市・町から多く発注されており、小規模の工事業者は、多数受注している模様。今後も、農村地区の災害工事が多く発注されると予測している。しかし、災害工事は一過性であり、多くの業者は好景気感を感じていない。人材確保は進まず、利益を得られるのか疑問。小規模事業者はますます困るのではない。	土木工事業 柳井市
	昨年夏の災害復旧の工事が多く発注されている。業者は工事のない時に人員を減少させているため、急に工事が出ても人手が足りず、辞退する工事もある。	土木工事業 周南市
	31年2月の受注高は、対前年同月比207.0%。今年度の累計は、対前年比111.4%。	土木工事業 萩市
運輸業	輸送関係は輸送量減に伴い対前年同月比0.7%の売上減。ドライバー不足により稼働率低下。油関係は2.3円の値下げとなったが、来月は値上がりするとのこと。	一般貨物自動車運送業 下松市
	輸送売上高は、対前年同月比約20%増加の見通しで、順調に推移している。保管料収入については前年並み。燃料費は下降傾向にあったが、先月から上昇に転じている。前年比では2%程度の上昇であり前年並みといったところだ。	一般貨物自動車運送業 防府市
	売上高、収益状況ともに好調だった。輸送、倉庫ともに協力会社を探している。	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>売上高は、この1年ずっと対前年同月比でマイナスであったが、今月は+3%となった。下関駅・新下関駅のどちらもタクシー乗車の少ない日があるので、客の波が大きいと思われる。大型客船の入港時に利用が多くなれば収益増が見込まれるが、団体規模が小さいため短期の多くの利用には答えることができない。</p>	一般旅客自動車運送業 下関市
	<p>タクシーチケットの取扱金額は、前年比+0.1%（平成31年1月1日～平成31年2月20日分）。1月1日～31日分は+2.7%、2月1日～20日分は▲3.6%です。</p> <p>1月は25日以降で回復し前年同期を越えたが、2月になって再び前年割れとなった。1月分について当組合の取扱地区別に見ると、周南▲0.2%、下松▲4.0%、光+11.7%、防府市地区が+2.1%で、組合員の全域では+0.5%、地区外（員外）+45.1%で合計+2.7%（+530千円）であった。得意先別の増減は、締切り期間による増減と思えるものも多く、長期間で平滑化すると、業種や地域による傾向はあまり無い模様。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動するが、CPが上がり（前月417.55\$/トンが今月445.0\$/トン、前年537.5\$/トン）、輸送用バンカーC重油も上がった（前月379.0\$/トンが今月390.0\$/トン、前年390.0\$/トン）。為替は円安（前月113.51円/\$が109.98円/\$）です。燃料単価は前月より+1.5%上がったが、前年2月分に比べると▲8.2%と下降している。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している。労働条件の改善のため、タクシー運賃の改訂を希望する事業者が運輸局に申請を始めている。これ以上需要が減少すれば、配車不能な地域や時間帯が発生することになる可能性がある。</p>	一般旅客自動車運送業 周南市
	<p>今月も対前年同月比で若干増加。</p>	港湾運送業
その他非製造業	<p>九州南部を中心に組合員が増加している。</p>	介護事業